



# TEAM FUKUOKA NEWS

「チーム福岡」福岡県選手団サポートニュースレター

## Today's news Flash

### 粘り強い福岡の戦い 8位内入賞を量産

競技開始2日目、各競技団体の粘り強い戦いにより準々決勝に進出する等、多くの入賞者が出ている。準々決勝進出をかけた軟式野球の対岡山県戦では、延長17回を一人のピッチャーが投げ抜き勝利し、レスリングでは本日だけで4名が入賞した。福岡県選手の活躍から目が離せない。

## Topics

### ベテラン選手によるチーム力の勝利 メディカルチームレポート

早朝から、片岡トレーナー、山形トレーナー二人と、山口市スポーツの森西京スタジアムでの成年男子軟式野球2回戦、福岡県対岡山県の試合を見守った。試合は息詰まる熱戦で、1対1で延長戦に突入した。両投手の好投で、延長は17回にも及び、17回の裏、劇的な2対1のサヨナラ勝ちを感激して見せていただいた。我々メディカルスタッフは、スポーツパフォーマンスを高めてもらうために現場に出かけていくわけだが、厳しい試合状況の中、福岡県チームの二人のベテラン選手のプレーが我々の目に焼き付いた。

一人は、延長17回、222球で完投勝ちした大脇投手。延長16回、バント処理の際に右足を捻挫したにもかかわらず快投を続けた。何よりも試合後にケアさせていただいた時も、平気な顔で対応してくれた。もう一人は、二日後に39歳を迎える下條一塁手。1回の表から17回の裏まで、常に笑顔を絶やさず、チーム内のムードメイクに努めていた。もちろん、打撃センスも抜群ではあったが、この二人のベテラン選手のさわやかなプレーは、われわれスタッフが選手に対するケアをする際の、有用で、価値のある手助けになったことは間違いない。(メディカルサポートメンバー 清家 渉)



延長17回を投げ抜いた 大脇雅樹投手

## Result

### 【本日の入賞確定者一覧】

#### 【入賞競技】

第3位	レスリング	少年男子フリー74kg	中村 建太
第3位	レスリング	少年男子フリー55kg	入江 真司
第5位	レスリング	少年男子フリー66kg	池松 和彦
第5位	レスリング	少年男子フリー96kg	赤熊 猶弥
第5位	ライフル射撃	成年女子10mP40W	井浦 望
第5位	馬術競技	少年 スピード・アンド・ハンディネス	山口 新
第7位	ソフトテニス	少年女子	

#### 【8位以内確定競技】

準々決勝進出	テニス	少年女子
8チームによる決勝進出	山岳競技	少年女子ボルダリング 森田・溝口
5~8位決定戦	軟式野球	
準決勝進出	ラグビー	少年男子

懸命に努力をして獲得した能力や技術が、怪我や疲労により発揮できない。選手にとって、本来の自分の能力を試すことができないほど、辛く悔しいことはない。選手の努力に報いるために懸命に活動する、福岡県メディカルスタッフについて、本県の帯同ドクターで、福岡県体育協会スポーツ医・科学委員会副委員長の清家 渉氏に話を聞いた。

メディカルスタッフが本部役員として初めて国体に帯同したのは、第48回東四国国体であった。今年の第66回山口国体でのサポートが19年目になる。

最初はドクター1人で、手出しの薬品を揃え、いろいろな会場に出向くのも手弁当（自己負担）の状態であったが、年々サポート体制が充実し、今やドクター、トレーナー、看護師、心理学者、栄養士で構成される総勢68名の実践的メンバーによるメディカルチームができあがった。自分のプライベートなスケジュールを崩してまで協力してくれる熱き仲間が集まった。

今回でも、ドクター4名、トレーナー7名によるチームを結成することができた。今日も山口県下を駆け巡り、メディカルチームとしての天皇杯を目指す。

～ 福岡県メディカルチーム 清家 渉 ～



捻挫に対する処置を行うメディカルチーム



メディカルスタッフの活用希望に関するお問い合わせ先

福岡県体育協会 鶴 英樹 090-3666-8232

## Analysis data

### 【福岡のライバル県は？】

右の表は、日本体育協会HPにおいて公表している本年度の目標順位を8位に設定している都道府県の昨年度成績及び本年度得点（会期前競技終了時点）を表している。目標順位および昨年の成績より、一番近いライバルは「京都府」、「兵庫県」、「北海道」と考えられる。福岡県は284.5点を獲得しており、この成績を昨年の同時期（冬季競技と会期前競技終了時）と比較すると、67.5点のアドバンテージがあった。同様に算出すると京都は前年比-35.5、兵庫は-30.5、北海道は-37となっており、ライバル県と比較して、本県が優位な状況にある。こうした内容から、福岡県自らが1点でも多く獲得することや、ライバル県との直接対決では、特に強い意識をもって臨むことが期待される。

都道府県	昨年(天皇杯)		会期前競技終了時得点		
	順位	得点	本年度得点①	昨年度得点②	昨年度比①-②
千葉	1	2921.5	312.0	439.0	-127.0
神奈川	3	1795.0	422.0	446.5	-24.5
愛知	6	1578.5	365.0	300.0	65.0
京都	7	1443.0	192.0	227.5	-35.5
兵庫	8	1442.0	236.5	267.0	-30.5
福岡	9	1437.0	284.5	217.0	67.5
北海道	10	1419.5	531.0	568.0	-37.0
岐阜	11	1302.5	233.0	184.0	49.0
広島	12	1266.5	144.0	107.0	37.0

問い合わせ 担当: 鶴 英樹 090-3666-8232 tsuru-fukuokaken@japan-sports.or.jp

配 信 元 福岡県選手強化推進実行委員会（福岡県教育庁体育スポーツ健康課内）